



関西湾岸SDGsチャレンジ まちの未来をひらく豊かな学びが次々と

甲南大学の大学生と大阪湾・瀬戸内海に臨む5つの自治体の高校生が、一緒に地域の課題解決策を考える「関西湾岸SDGsチャレンジ」

(主催:甲南大学、朝日新聞社メディア事業本部、後援:神戸市、堺市、和歌山市、徳島市、岡山市)。国連が掲げるSDGsの考え方をもとに、環境と経済が両立し、

誰もが安心できる社会を地域から見つめ直す取り組みは今年で第6回を迎えます。さらに期待が高まるプロジェクトのこの5年間の成果とこれからを紹介しましょう。

地域社会とつながって 社会に生かせるリアルな活動を大切に

2018年から始まった「関西湾岸SDGsチャレンジ」は、甲南大学が自治体と結ぶ連携協定に基づいて実施。大学生と地元高校生がチームを組み、自治体職員・朝日新聞記者のサポートを得ながら神戸市・堺市・和歌山市・徳島市・岡山市の地域課題に対して持続可能な解決策を考えるプロジェクトだ。大学教員は指導者(メンター)として助言する。

「チャレンジが始まった5年前から、参加自治体の学生たちへの期待が年々大きくなるを感じています。若い人の提案は地元を深く知る大人たちでは気づけないフレッシュさがあり、地域課題解決のヒントになっています」と阿部真大教授。提案が実を結んだ例の一つ



甲南大学 文学部社会学科 教授

阿部 真大氏

況は時とともに変化するが、社会から孤立する人が増える中、解決策を探るための知の集積の場として大学への期待の高まりを感じるという。「学生たちにも関西湾岸SDGsチャレンジを通して、大学本来の役割を体感してもらうことも大切」と話す。

コロナ禍が落ち着いた今はフィールドワークの時間を充実させる。「現地でのリアルな活動は地元のその人たちの情熱や空気感が学生に直接伝わり、学びが一気に深まります。今年も楽しみにしています」



フィールドワークや取材をもとに、毎年11月のチャレンジアカデミーではSDGsの視点で課題解決策を提案する

として、2020年に学生たちが神戸市に提案した六甲山の放置竹林問題の解決策を挙げる。今も外部団体と連携する形で活動が続く。

地域の課題や状



学ぶフィールドは学内だけじゃない 大学生と高校生が課題解決にパワー発揮

関西湾岸SDGsチャレンジの学びはオンラインも活用しながら5年間で進化した。初年度からメンター教員を務める全学共通教育センターの岡村こず恵特任准教授は、3年前から徳島市を担当。「地元高校生がオンラインで参加できるようになり、会議の回数が増え、議論もより深まるようになりました。昨年は阿波おどりの運営の担い手をいかに増やすかを探究。今年は阿波おどり以外の観光資源を探究します。積み重ねてきた活動を次に生かす、新しいチャレンジができるそうです」と期待を込める。



甲南大学 全学教育推進機構
全学共通教育センター 特任准教授
岡村 こず恵氏



和歌山市では昨年、海岸のごみに着目してシーグラスを使った
参加型アートを提案した

地域課題を学問上で捉え、どのような提案ができるかを考えることは大学が地域に貢献できることの一つだといふ。

関西湾岸SDGsチャレンジは大学内のプロジェクトの中でも特に人気が高く、参加するために甲南大学に進学した人もいるほどだ。今年は7月の事前講義とグループワークを経て、夏休み中にチームで各地域をフィールドワーク。朝日新聞関係者も同行し、11月には「SDGsチャレンジアカデミー」で課題解決策を発表し自治体から講評を受ける。学び方や調査方法が年々発展し、学生の主体性を引き出していく成長を示す関西湾岸SDGsチャレンジから今年も目が離せない。

大学生と高校生が互いに刺激しあって学ぶのもこのプロジェクトの魅力だ。「高校生は地元を知っている強みがあり、大学生は外からの目線をもって新しい発見ができる。ともに学ぶことで教育効果は高まります」と岡村特任准教授。

●Voice 高校生(2022年度参加)

異なる世代の人たちとの 交流で経験値が上がる

甲南高校 3年 増谷友宏さん・松山玄篤さん

増谷さん 昨年、神戸市が抱える課題である神戸・三宮周辺でのバス利用における利便性について、解決策を提案しました。バスの利用をスムーズにしようと、バス停の場所などの目的地がわかるように、道しるべを路上に描くことを提案。デザインは港町らしく船に似せた方位磁針を採用し、神戸らしさを表現しました。また、高齢者の利便性を高めるためスマートを使わない方法を考案。大学生の分析力の深さにも驚きました。

松山さん 課題に直面している市役所やバス会社の方に取材するのは、面白かったです。大学生や教員の方など、さまざまな世代と交流することでとても良い経験に

なりました。成果発表では、大学生との協合作業を通じて、見やすい書類のまとめ方と、要点を絞った話し方の大切さを知りました。

●Voice 大学生(2022年度参加)

課題解決するための企画力 学部の学びの大きな力に

マネジメント創造学部マネジメント創造学科 2年 谷口美実さん

SDGsへの興味と課題解決に挑戦したいという思いから昨年のプロジェクトに参加。持続可能な阿波おどりを目指し、祭りの開催を支える商店街やNPO法人の方たちに話を聞いた結果、祭りの運営側に担い手不足の課題があることがわかり、若者を活動に巻き込むことの重要性を実感。地元高校生とともに、私自身も祭り当日のボランティアに参加し、具体的な改善点を考えるヒントを得ることができました。徳島市長に提案をお伝えしたところ、前向きな回答をいただきました。

とができるうれしかったです。チャレンジで養った企画力は、大学での学びにも大きな力となっています。今年も徳島を訪ねるつもりです。

●Voice 自治体

学生の豊かな発想力が地域の課題を解決に導く

神戸市 企画調整局 部長 藤岡 健さん

神戸市では地域社会が抱える課題解決について、若い方々特に大学生や高校生に関わってほしいとの思いがあり、コロナ禍では、市内のNPOや地域団体が取り組む多様な活動と学生をマッチングする「KOBE学生地域貢献スクランブル」などを展開してきました。5年前にスタートした関西湾岸SDGsチャレンジですが、地域課題やニーズの多様化に伴い、年を経るごとに、その取り組みも進化していると感じます。特に2020年の「BambooにThankyouプロジェクト」は放置竹林の活用法を探るすばらしい提案であり、現在も活動が続いている。教育と研究を担う大学が地域とつながり、自治体だけでは思いつかない学生の豊かな発想力で、課題をどう解決していくか。次も大いに期待しています。

www.konan-u.ac.jp/

甲南大学 SDGs

甲南大学
OPEN CAMPUS
—甲南でみつける私のミライ—

事前
申込制

QRコード
申込は[こちら](#)

SCHEDULE 2023

夏期 7/9 sun・8/6 sun 秋期 9/17 sun

3キャンパス同時開催

申込方法・イベント詳細 受験生向け情報サイト
[「甲南Ch.」よりご確認ください](https://ch.konan-u.ac.jp)
<https://ch.konan-u.ac.jp> 甲南Ch. Q.

QRコード

STAGE
Special Track for Accelerated Global Education

甲南大学グローバル教養学環

2024年4月誕生

詳しいは[こちら](#)

Join The World's STAGE

甲南大学公式 Twitter LINE Instagramで最新情報をCheck!
@konandaigaku

QRコード